

平成26年度  
入学試験問題

国 語

2月1日 午前

受験番号	氏 名

中村中学校



□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 今年の暑さはカクベツだ。
- (2) 君の話し方はヨウリヨウを得ない。
- (3) 自分の実力をカシンしてはいけない。
- (4) おじはアメリカにエイジュウしている。
- (5) 児童会で体育館の使い方をトウギする。
- (6) 牧場で牛をシイクする。
- (7) 君の意見にはサンドウできない。
- (8) 土台をキズく。
- (9) 出番を待ちカマえる。
- (10) アブない目にあう。

② 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

文を改変、省略したところがあります。)

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

昔から伝わる言葉に、「失敗は成功のもと」「失敗は成功

の「あ」という名言があります。失敗しても、それを反省して欠

点をあらためていけば、必ずや成功に導くことができるという深遠な意味を含んだ教訓です。

私は大学で機械の設計について指導していますが、設計の世界でも、

「よい設計をするには経験が大切だ」

などということがよく言います。私はその言葉を、

「創造的な設計をするためには、多くの失敗が必要だ」

といいかえることができると考えています。

なぜなら人が新しいものをつくりだすとき、最初は失敗から始ま

るのは当然のことだからです。

人は失敗から学び、さらに考えを深めてゆきます。

これは、なにも設計者の世界だけの話ではありません。営業企画

やイベント企画、デザイン、料理、その他アイデアを必要とするあ

りあらゆる創造的な仕事に共通する言葉です。つまり、失敗はと

かくマイナスに見られがちですが、じつは新たな創造の種となる貴

③ 重な体験なのです。

いまの日本の教育現場を見ても、残念なことに「失敗は成

功のもと」「失敗は成功の「あ」という考え方が、ほとんど取り入

れられていないことに気づきます。それどころか、重視されている

のは、決められた設問への解を最短で出す方法、「こうすればうま

くいく」「失敗しない」ことを学ぶ方法ばかりです。

これは受験勉強にかぎりません。実社会でも通用する知識・教養

を教える最高学府であるはずの大学での学習もまた同じです。失敗

から学ぶ体験実習のように、自分の力で考え、失敗経験を通じて新

たな道を模索する、創造力を培う演習が行われる機会は、悲しい

かなほとんどありません。これが、「日本人の欠点」として諸外国

から指摘され、また、自らも自覚している「創造力の欠如」にその

まま結びついているのではないでしょうか。

たしかに以前は、ほかの人の成功事例をマネすることが、成功へ

の近道だった時代がありました。そうした時代には、決められた設

問に正確な解を素早く出す学習法が有効だったのは事実です。

しかし、ほかの人の成功事例をマネすることが、必ずしも自分の

成功を約束するものではなくなったのがいまの時代です。昨日まで

の成功は、今日の成功を意味しません。そのような時代に大切な

は、やはり創造力です。そして創造力とは新しいものをつくりだす

力を意味している以上、失敗を避けて培えるものではありません。

創造力を身につける上でまず第一に必要なのは、決められた課題

に解を出すことではなく、Xです。あたえ

られた課題の答えのみを最短の道で出していく、いまの日本人

が慣れ親しんでいる学習法では、少なくともいまの時代に求められ

ている真の創造力を身につけることはできません。

⑤ それでは、創造的な仕事をする場合、できれば身につけていたい

知識とはなんでしょう？

それを知るためにも、自分が新しい企画を考えたときの様子を想像してみることにしましょう。

あなたはまず、「こうすればうまくいく」という成功話を見聞きしたいと思いかもしれません。たしかに受験勉強などで、ある決められた仕事をこなすためには、「こうすればうまくいく」話はない

へん有効です。1 あなたはじきに、「こうすればうまくいく」

話だけでは不十分だということに気づくでしょう。2 「うま

くいく」話をもとにつくった企画は「どこかで見聞きした企画」にすぎないからです。

3 そこで、本当に欲しくなる話は何でしょうか。それが

じつは「こうすればまずくなる」という失敗話なのです。

55

「こうすればうまくいく」といういわば陽の世界の知識伝達によって新たに作りだせるものは、結局はマネでしかありません。ところが、「こうやるとまずくなる」という陰の世界の知識伝達によって、まずくなる必然性を知って企画することは、人と同じ失敗をする時

間と手間を省き、前の人よりも一ランク上の創造の次元から企画をスタートさせることができます。

〈中略〉

このように、陰の世界の知識、すなわち失敗経験を伝えることは、教育上大いに意義のあることですが、残念なことに失敗そのものは、「回り道」「不必要なもの」「人から忌み嫌われるもの」「隠すべきもの」などといった負のイメージが常につきまっています。そのせいか、いまの日本には、失敗体験が情報として積極的に伝達されるものがほとんどありません。

(畑村洋太郎 『失敗学のすすめ』)

問一 二か所ある あ に共通して入る言葉を漢字一字で答えなさい。

55

45

65

50

70

問二 ——— 線 a 「導」、b 「深遠」の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問六 ——— 線④とは具体的にどのようなことだと筆者は考えていますか。本文中の言葉を用いて五十字以内で答えなさい。

問三 ——— 線①「言います」を、本文にふさわしい形に直して答えなさい。

問七 ——— X に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

問四 ——— 線②とありますが、これについて説明した次の文の A、B に入る適当な言葉を本文中からそれぞれぬき出して答えなさい。

ア、正確に成功例をまねる能力  
イ、失敗を避けて対応する能力  
ウ、素早く最短で取り組む能力  
エ、自分で課題を設定する能力

一般的に失敗は A (四字) のイメージとしてとらえられるやすいが、失敗をすることで B (七字) を得ることができるといっている。

問八 ——— 線⑤とありますが、(1) その「知識」とは何ですか。本文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。  
(2) その「知識」を身につければ、どのようなことができるようになるかと筆者は述べていますか。五十字以内で答えなさい。

問五 ——— 線③とありますが、このようになってしまった背景にはどのようなことがあったと考えられますか。そのことについてふれた一続きの二文を探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問九 ——— 1、2、3 に入る語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、だから    イ、では    ウ、しかし    エ、なぜなら

問十 次の文のうち、本文の内容にあてはまるものには「A」を、

そうでないものには「B」を解答らんらんに書き入れなさい。

ア、あらゆる分野において新たなアイデアや成功を生み出すためには失敗をすることが重要だ。

イ、失敗を続けることによって、より創造的な仕事ができるようになる。

ウ、いまの日本の教育現場では、大学をのぞいて、創造力を培う体験が少ない。

エ、真の創造力を身につけるために、正しい方法を何度も繰り返して練習する必要がある。

オ、失敗経験を実際にしたり、人から聞いたりすることで創造力を培うことができる。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本

文から改変・省略した部分があります。)

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

ポートボール大会の木成きなり小学校代表に選ばれている「私」だが、足の痛みや柳瀬やなせ小との練習試合のミスから補欠選手の立場で大会当日を迎える。

朝八時に合図の花火が鳴った。十一月三日、文化の日。小田原市ポートボール大会。場所は柳瀬小学校。柳瀬は木成小からいちばん近い小学校で、春になったら同じ中学校に通うことになる。

グラウンドに、白線でコートが八つ分引いてある。まだだれも足を踏み入れていない、新品のできたてのコートだ。

私はふいに、何時間かあとのコートを思い浮かべる。空を舞うボール、力強く軽やかなふくらはぎ、大勢の人たちのかけ声や応援、いくつもの運動靴の足跡、ほこりと青空が混じった秋のグラウンドの風景……。

開会式が終わり、それぞれのコートで試合開始のホイッスルが鳴り響く。木成小の第一試合の相手は、強豪チームに名前があらきようこうない今田小ということで、やさおかなやも金谷も余裕よゆうに見える。

※ ピーツ。試合開始。

私は応援席で体育座りをして、試合の様子を見つめる。目の前にあるコートとその外にいる私。すぐ手が届きそうな距離なのに、それは途方もなく遠い。

15

私はチェンジコートの休憩のときに、

A

白線をまたいで

みた。すると当たり前だけど、私の身体は

B

コートの中に入っ

てしまった。

さっきまでは、あんなにちがう世界だったのに、あんなにかけ離れていたのに……今、私はその遠かったコートの中にいる。そのことは私にとってかなりむずかしく、同時にひどく単純なことのように思えた。

20

今田小との試合は、木成の圧勝だった。やさおは第一ゲームあたりからすでに勝利を確信したらしく、メンバーチェンジをくりかえして、レギュラーに入れなかった補欠組を順番に出場させた。

25

私は、コートに増えてゆく足跡と白く舞う土ぼこりを、遠い国の田園風景のように、落ちついた気持ちでゆっくりと眺めていた。

木成小はそのあとも順調に勝ち進み、午後からは準決勝戦となる。

隣でお弁当を広げているみどりちゃんはとても幸せそうだ。

30

「優勝できるかもしれないよ」

デザートのカウイフルーツをひと切れ口に入れて、

a

言う。

うん、きっと優勝するよ。私も

b

答えて、水筒の中の砂糖

入り紅茶をひと口飲んだ。

〈中略〉

準決勝の相手は柳瀬小だ。真剣勝負。これが事実上の決勝戦となる。「私、がんばる」試合直前に、みどりちゃんが鼻をふくらませて意気こんだ。

40

「うん、がんばって、みどりちゃん！ カナちゃんも！」

私はコートに向かうみどりちゃんのお尻をたたき、カナちゃんとは指相撲をするときのようにお互いの右手を組んだ。これがカナちゃんとのいつもの挨拶だ。

円陣を組んで、金谷が声を張りあげる。

45

木成しよおー、ファイツ、オー、ファイツ、オー、ファイ、オーツ、がんばっていこー！ ファイツ、オウ！

自分が参加しないかけ声は羨望といたたまれなさがごっちゃになって、

c

耳をふさいでしまいたくなる。

ピーツ。

50

「整列」

この試合に勝てば、きっと優勝はまちがいないだろう。応援にも自然と力が入る。

35



有希ちゃんナイスシュート!

みどりちゃん、ナイスキャッチ!

みんなの聲が次々に飛ぶ。やさおも、試合にじゃまなくらい身体をぐいぐいと乗り出して声援を送る。金谷、そこだそこ! よーし、ナイスドリブル、山本、行け、持ってけ、瀬川そのままシュートだ!

木成と柳瀬の点差はほとんどなく、どちらかが得点すると今度はもう片方が得点するといった具合で、本当に接戦だった。

あつ。見たことある子、と思ったらいつかの背番号16番だった。

柳瀬との練習試合で、あの16番にしつこいマークをされたことを思い出す。16番は相変わらず執拗※しつようなマークをして、あかねちゃんを困らせている。私はじっと16番の動きを目で追う。

大事な試合に出場している柳瀬小の16番と、わざとらしい湿布しつぷをしてコートの外で応援している木成小の16番。

私は、はあーっとため息をつく。ああ、またこんなに離れてしまった。あるとき並んでいたものが、知らないうちにどんどん離れてゆく。みんな私を置いて先に進んでしまう……。

ピピーツ。試合終了しゅうりょうのホイッスル。

「二十八対二十六で木成小学校の勝利です。気をつけー、礼!」

やったあ勝った。木成小の勝利。わあーわあーと歓声かんせいがあがる。

55

五年生の子たちも、跳びあがって喜んでいる。五年生のほとんどは有希ちゃんファンで、有希ちゃん目当てにオール木成に入った子もいるという噂だ。試合終了と同時に、有希ちゃんのまわりには、わらわらと五年生が集まっていた。

試合が終わったとたんに、私は急に気が抜けてしまった。うれしけれど、思ったほどうれしくもないのだ。あんなに夢中で応援してたけど、なんかもういいや、って気分だ。

コートの向こうでは、柳瀬の16番が泣いていた。泣けるなんてうらやましい、と私はだれにもきこえないくらいの小さな声で口に出してみた。

「えーん、さえちゃん」

と、みどりちゃんが泣きまねをしてやってきた。

「勝ったねー、よかったね、みどりちゃん」

「うん、うれしいよ」

みどりちゃんは、本当に本当にうれしそうだった。私の大好きなみどりちゃんえがおの笑顔。

でも、私は気づいてしまった。みどりちゃんと私は、前とはちがう。知らないうちに変わってしまった。ずっと同じ気持ちでいつもいっしょに感じてたことが、今はもうちがう。

六月の地区のポートボール大会で戸川が優勝したときは、みどり

75

80

85

90

ちゃんと同じ目線で、同じ分量で同じ深さで感動していたのに、今はもう別々の位置からお互いに笑いかけるようになってしまった。

95

「次は決勝だね、みどりちゃん」

「うん、がんばるよ」

そう言って、みどりちゃんはピースサインとガッツポーズを順番

にしてみせた。私は

☆

しっくりしない気持ちでみどりちゃんの顔を眺めていた。

100

決勝戦の相手は、高たか浜はま小学校だ。

「はいあがって努力してきたチームは強いからな。気を抜くなよ」

やさおが熱く興奮ぎみに言った。高浜小が決勝まで残るとは、だ

れも思っていなかった。去年もおとしもその前も、高浜小の順位

はずっと下のほうだった。

105

「今までの練習の成果を出せばだいじょうぶだから、精いっぱいやっ

てこい」

直人先生が静かに言い、金谷たちは、

「ハイッ」

と姿勢を正して返事をした。そして、

110

「これが最後のポートボールの試合だからな」

続けて直人先生が言った。それをきいた有希ちゃんが、はっとし

たように大きくうなずいたのを合図に、みんなも口々に、

「そうだね、最後だよ」

と、今気づいて納得なっとくしたようにささやき合っていた。

115

さすがに勝ち残ってきただけあって、高浜小は身体から湯気が出

そうなくらいの気迫きぱくだ。もちろん、木成も負けてはいない。

たーかはまっ、ファイト、オー、ファイト、オー、ファイト、

オー。

木成しよおー、ファイツ、オー、ファイツ、オー、ファイ、

120

オーッ、がんばっていこー！ ファイツ、オウ！

決勝戦ということもあって、コートのみわりには人が増えてきた。

応援にも自然と熱が入る。

がんばってえー、そこそこシュート！ パスパス！ マークよく

見て！ 今だ、早くシュート！

125

応援席でもコート内でも、大きな声が飛びかっている。私もつら

れて声を出してみるけど、その声の持ち主が自分だとはまるっきり

思えないのだった。

高浜小のやる気はすばらしかったけど、やはり実力は木成のほう

が上で、第二ゲームあたりからは高浜のペースがくずれてきて、み

130

るみるうちに点差が開いてきた。

やさおは、六年生のオール木成のメンバーをできれば全員、今日

の試合に出場させたいらしく、優勝を確信したあたりから、またメ

ンバーチェンジをはじめた。

波にのった木成小は、だれが出ててもミスはなく確実に順調に得点を決めていった。

ピピーツ。

甲高いホイッスルが試合終了を告げた。ワツと歓声があがる。三十二対十八で木成小学校の勝ちです。気をつけー、礼！

「ありがとうございます！」

その声をきいたら、ざわざわっと感動の波のようなものが下から上に広がってきて、鼻の奥がつんとしてしまった。

「小田原市ポトボール大会、優勝木成小学校。代表者前へ」

「はいっ」

金谷と有希ちゃんが前に進み出て、賞状とトロフィーを受け取った。木成小学校優勝。

私はなんとなく空を眺めている。雲はちよっと目を離れたすきに形を変えてしまう。かといってじっと見つめていても、今度はどの部分が変化したのかわからない。

(椰月美智子『十二歳』)

※やさお……木成小ポトボールチームの監督の先生。

※羨望……うらやましく思うこと。

135

※執拗……しつこいこと。

問一 —— 線①について、なぜ私はこのように思ったのですか。

次から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、ポトボール大会の試合は始まったばかりで、なかなか終わりそうにないから。

イ、ひかえの選手なので、応援席から一步も外に出てはいけな  
いと言われたから。

ウ、実際に、試合中自分が一番コートから離れたところで応援  
しているから。

エ、試合は目の前のコートで行われているのに、その試合に出  
られそうもないから。

問二

A

B

に入る言葉の組み合わせとして正しい

ものを次から選び、記号で答えなさい。

A

B

ア、どうどうと —— 完全に

イ、おずおずと —— 十分に

ウ、こっそりと —— 簡単に

エ、ゆったりと —— 自然に

問三   に入る言葉を次からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。

ア、元氣よく イ、ふいに ウ、おもわず エ、たのしそうに

問四 —— 線②とありますが、このような状況じょうきょうを簡潔に表現し

た部分を本文から七字でぬき出しなさい。

問五 —— 線③とありますが、なぜ負けたチームの選手が泣いて

いるのを「うらやましい」と思ったのですか。説明しなさい。

問六 —— 線④について具体的に説明する場合、(A)

(C) にはどのような内容が入りますか。本文中の言葉  
を用いて答えなさい。

みどりちゃんと私は以前は (A) のに、試合後の今はみどり

ちゃんが (B) のに対して、私は (C) 。

問七  に入る適当な比喩表現ひゆひやを次から選び、

記号で答えなさい。

ア、最後の一枚のパズルを、無理やり合わない箇所かしょにはめこん  
でしまったような

イ、試合に負けたスポーツ選手が勝者にかけて寄り握手あくしゅを求める  
ような

ウ、もう味のしないガムをいつまでも未練がましくかみ続けて  
いるような

エ、だれもいなくなった暗い夜の浜辺にたった一人でとり残さ  
れたような

問八 ———線⑤の「私」の心情を説明したものとして最も適当な

ものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、声を張り上げているが、周囲の声にかき消されて届いていないと思えない。

イ、応援に熱中するあまり、声があわづってしまっただけで落ち着かない。

ウ、声を出して応援しているのだが、どこかうわの空で気持ちが込められない。

エ、自分は補欠なので、選手と一緒に声を出しても一体感が得られない。

問九 本文全体を通して読み取れる「私」の心情としてふさわしい

ものには「A」を、ふさわしくないものには「B」を解答らんに書き入れなさい。

ア、試合をただ見つめることしかできない私にとって、木成小

の優勝には何の感情も生まれずどうでもいいと思っている。

イ、試合に出場することなく大会を終えてしまい、優勝したことに心を動かされてはいるが無力感はぬぐえない。

ウ、補欠選手の立場で泣いたり喜んだりするのはみっともないことだという思いがあり、冷静さを保とうとしている。

エ、補欠選手になってしまったことで、実際のプレーだけでなく心の面でも試合に入り込めなくなってしまう。